

於
190
8

本伊

大川

東都

絲樓春蝶奇縁卷之三

東都 曲亭馬琴 編述

第三段の下

かくて十兵衛不曙明とワケ宿野不務ひ入と廻て母屋へもれたる京東花を今
あはれ七回の仇をなげり。更不被墓表と建高野(縮大和路)のけ入を宿野へもれり。
あはれ途を不故ありて延滞せり。主の十代物より。さるの命。僕元茶一個の妹あり。
あはれ總角の耐別れより。その往方と老ふゆひに。被ハ伊勢へ来た。人の妻あり。女子二人
あはれと産まふ。母も夫の飽む。死を携て舊里へ行く。悪提中。欺れて遠江を謀る。
あはれ六才あり。竟て其墓を奪ひとれる。その日僕通りぬ。辛く妹を救ひぬ。
あはれゆりゆり縁由と告げ。且バ十代物で驚歎。その苦に。なす。夫と去。れ。
あはれと。失ひ。妹の心の中。推量。いと痛く。思。相主の宿野不養人。

東都 曲亭馬琴 編述

とてして才へさうして位牌へ華をひ向香を焼せ。さき執著乃
所為あぶ。

第四段

安濃津小神原命を傳ふ
遠江離れ父子沈淪せ

光陰の如く又梭のごとく。白駒隙を過る。三浦須臾も止む。故由五十四塚
東六郎の次女止忍子を屬して。曙明を離別せしむ。十年あまりの月日を経る。
逝りの日不疎し。とほろろのあはれ。それあら人のなかり。飽も倦も
甘妻を一朝の疑念おもうて。速に離別をせん。その密夫を何人なりとも
まよひ。月ごころ年まよひ。なつたに。づうの風声ゆ。せえと。原來曙明は。淫く
まのよまのたを。あまのに。疑ひて。遂にせし。と。情け。疑心暗鬼を生
まると。づうと。と。今更ふ。百遍悔。千遍悔。も。存も。た。よ。そ。が。性。方。を。索。ん

こも又す。や。た。不。り。ま。れ。が。ゆ。あ。の。り。の。う。ら。小。草。ハ。二。八。の。春。を。迎。て。
艶妹。の。の。ま。つ。ぶ。び。を。ま。も。正。首。を。て。父。の。教。を。悖。る。と。あ。く。推。さ。り。う。り。母。
習。て。一。々。書。抄。う。り。徳。刺。の。正。能。の。ま。も。綿。を。摘。扱。を。激。し。と。た。ま。は。く。して。
日。衣。食。の。料。不。給。幼。弱。く。て。別。と。る。母。の。ゆ。妹。の。ま。ま。ひ。を。な。す。時。も。なく。
胸。の。獲。袋。を。ゆ。け。頼。む。紀念。の。印。籠。を。さ。う。あ。て。ん。長。尺。袂。を。纏。り。て。さ。う。を。
親。同胞。と。慕。ふ。こ。人。る。ま。は。後。世。し。う。東。六。郎。の。う。ら。な。も。ま。も。の。女。見。ひ。と。う。ま。
尉。と。竊。は。女。婿。と。擇。む。お。媒。妁。も。り。此。被。り。婚。縁。を。未。あ。け。ま。と。さ。ふ。
稱。も。あ。る。り。け。り。時。小。天文。十七。年。秋。八。月。菽。の。裏。て。菊。の。ま。も。閑。ひ。と。さ。や。り。
ええぬ朝風も。いと冷おる。り。ゆ。く。隨。お。有。一。日。の。時。暮。し。一。個。の。武。士。後。有。二。
七。人。を。東。六。郎。が。宿。所。は。宿。ま。つ。お。ま。う。と。え。と。お。門。を。ま。主。人。と。み。つ。り。う。
権。と。奪。て。腰。刀。を。取。て。ま。り。出。せ。る。金。は。是。別。人。の。ま。は。鎌。倉。の。後。又。昆。虫。



胡蝶の
小靴
聘と
神原
増え
後ぞ

小草

至四塚東六

神原女房

糸村

つるは後東六を速く討つべし。彼彼のの志を移して件の羽織を返さ
とも舊の主従たるをたの羽織も亦あつらふ。空庫の事不詳。この旨を
ころろと可憐に仰せられ。終は律されるひあはゆる。あゝ憲政朝臣先
君の送命のまゝ。只速に和殿と仰せり。もとて親教の旨を思食とされ
豫て某よおん使を仰せり。と。近年亦復豆相ある氏侍也。と。誠を
挑まらば。貌姑峯足柄の路絶て。この地へ赴くところ。いづらざる。せ
今茲ややく隙を以て。同道より走の海り。君命を傳ふ。と。矢平平が牙ふ
そのても。実よよなれば。面目あり。則路費とて。沙金二百兩。殿子五巻。箱
七巻を賜ふ。の。同る。起り。と。して。謙倉へ。及。糸。と。律。詳。い
速く。東六の感涙を禁む。終て。や。や。く。頭。と。擡。君。た。と。と。の。い。と。も。
臣のて。臣。た。と。と。の。い。と。も。君。の。非。を。繼

源嬰春葉奇縁長三

二

情と逆謙倉を立退する。討の女士も向れ。終焉。及。せ。の。い。と。く
送言。と。と。の。い。と。も。君。恩。の。高。は。と。と。の。朝。然。山。も。致。る。と。と。の。い。と。も。
你。と。と。の。い。と。も。海。の。比。が。と。と。の。劍。を。解。て。徐。の。君。の。墓。は。掛。る。吳。の。季。れ。が。
信。へ。離。て。夢。の。夜。主。君。秘。の。陣。羽。織。を。返。進。せ。ざ。り。と。と。の。い。と。も。
恨。と。と。の。い。と。も。異。姓。の。主。君。は。休。と。と。の。い。と。も。且。く。因。窮。と。と。の。い。と。も。彼。一。文。字。の。秘。を。せ。り。
和。殿。謙。倉。の。海。り。の。い。と。も。と。と。の。い。と。も。彼。陣。羽。織。と。と。の。い。と。も。柳。台。の。い。と。も。
豊。我。て。神。原。が。海。り。の。い。と。も。と。と。の。い。と。も。君。公。鴻。平。の。い。と。も。と。と。の。い。と。も。
此。小。白。極。と。御。せ。せ。れ。と。と。の。い。と。も。君。公。鴻。平。の。い。と。も。と。と。の。い。と。も。
持。来。せ。ん。と。と。の。い。と。も。君。公。鴻。平。の。い。と。も。と。と。の。い。と。も。

のこの二文字を進ませよとの命命のうけもつるほどよめてふよ。和後
 鎌倉のなまの月こま夜めて見糸の引物進じしもの所感の八もあ
 増させむひて首尾とてよろしくいん且くこまをむいぬとていふ東六
 まんく飲び獲て羽織と賜物をとり納めて更の盃を初つ女児小草お
 酌を執て神清を合とぞ。矢野平とめて小草をえてよめ人の
 愛女や。傳稀る。標致の母もあひ在るや。多の何と唱まふ今うま
 我家本ありのま。同て小草の御いげ。年ハ二ハはるのけり。ちん小草と
 母は母と。おろく夜もて念地黙てる。女児のころを推量て東六の笑ひふ
 紛ら。神原氏肉せ。月長へ延てゆども。田舎育のあつて。いふま
 童の異るる。某幸ふ子どもあつて。年ハ二ハはるのけり。ちん小草と
 役もたらが。女房へあつて。彼六才ふりり。秋次女と属て離別
 あつた。今よおのむ。女児ひとり。小教を。され彼が性。うん
 ちり書入る。いせ。修習源氏の草紙。いと好と。續も。徳刺の。此が
 さらる。綿もつ。校も。婦女の。佳塔と。渡ど。
 母の。女子と。ひとり。公若さ。精一の。と。うま。若親
 族の。信。と。矢野平。小藤と。め。言卒命。似。れども。
 某。又一子あり。今年。既。小十八。某名。校五郎。と。喚。做。せり。人の。島。々
 才。い。む。け。と。又。好。悪。を。ま。文。武。の。道。は。然。也。年。十五。の。士。月
 より。近。習。ふ。給。れ。給。事。懶。れ。彼。由。又。不。幸。ふ。と。母。と。喪。ひ。し。う。ら
 婦。と。要。り。せん。と。此。彼。と。擇。め。ども。い。ま。意。を。稱。ふ。の。は。一。族。乃
 義。と。重。ん。て。被。代。る。を。惜。む。る。今。愛。せ。り。校。五。郎。小。妻。と。あ。ら。ふ
 勢。は。れ。お。や。と。し。け。り。も。い。ふ。は。り。あ。ら。れ。と。づ。弑。小。相。彈。の。を。知。る

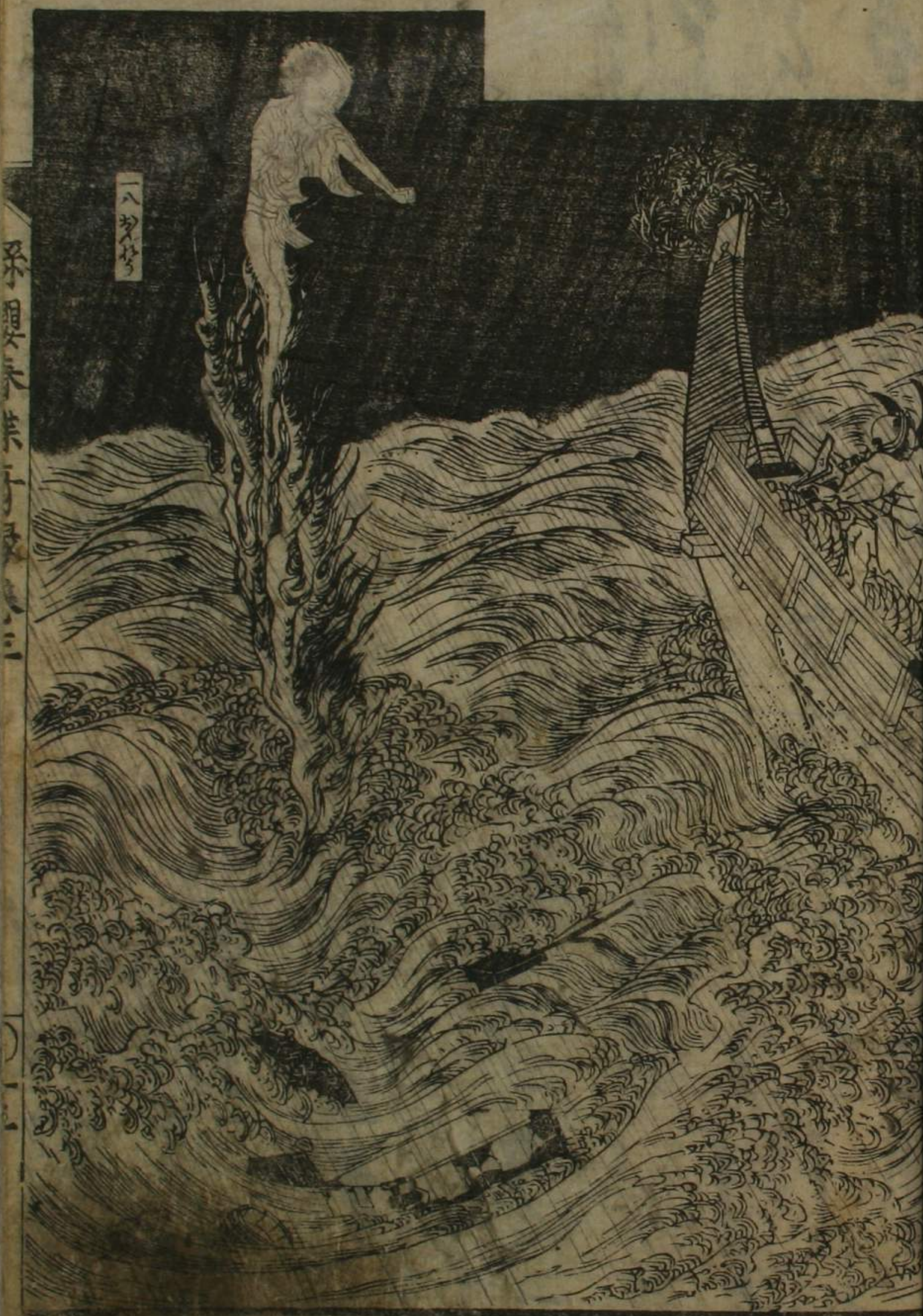
のころりつふをぢや。と問は東六莞介と笑え。女人いえ。某三男の家を。夫の家どりて家とまられば。とある。女婿と招とりしをも。彼が家とよらひがじ。室小五郎家神原。同宗の親あり。某此家よりある。ぬきの恩命を蒙ると。まは是れ親達の執達よりある。いふ。いふ。女と惜く。恥かぢ。まると。奴をさき。狭五郎小五郎嫌且ど。速小諾と。婿縁と結ぶべし。終て。変改まらるべし。と言ふ。と放て。愈々。夫野平斜。だ。飲びて。腰刀。著る。刀子と。扱出。又懐より。田金十枚。をとり。さう。ゆ。扇と。さ。用なつ。これと。裁。お。厚つ。さ。い。い。さ。ら。率介小相澤。さ。刀子の婿縁。即座。小さ。の。ひ。父子の。面目。さ。の。う。人。な。狭五郎。ふ。く。と。告。あ。が。彼も。さ。と。を。致。ぐ。め。善。く。速。よ。せ。と。い。ふ。世。後。の。あ。れ。ど。も。後。た。ま。を。た。齋。さ。る。の。の。ゆ。ゆ。ぞ。さ。の。刀子。の。兼。之。の。衣。服。は。体。茶。の。家。正。が。作。り。親

あ。の。さ。三。老。圍。り。一。年。恩。賞。と。く。君。より。賜。て。を。某。小。奥。も。小。柄。の。則。赤。銅。駒。子。小。金。の。胡。蝶。三。羽。あり。又。この。金子。の。路。費。の。餘。分。今。婿。縁。乃。聘。と。せん。受。納。め。の。つ。じ。と。親。たり。主人。の。厚。さ。り。小。奥。が。東。六。左。を。さ。く。こ。を。さ。ね。く。恩。賜。相。傳。の。小。鞘。を。り。て。聘。物。と。せ。ら。る。と。ま。ら。る。と。し。た。ま。を。あ。ぞ。の。この。金。を。受。つ。て。君子。の。断。金。の。文。を。さ。る。ま。と。こ。を。笑。ひ。某。を。侮。り。あ。の。致。さ。る。ゆ。と。推。辞。は。神。原。より。長。政。さ。の。つ。ま。事。な。ら。ら。救。て。和。な。を。降。ら。ふ。あ。ら。ば。この。金。も。又。主。君。の。賜。る。子。孫。の。と。を。さ。ら。ふ。あ。り。子。の。為。は。婦。を。擇。む。君。恩。は。報。せん。為。の。そ。縁。を。け。ら。そ。好。を。結。ぶ。よ。金。は。か。り。う。と。て。賤。む。ら。う。に。枉。て。納。め。ら。ふ。と。く。叮。嚀。に。進。め。ら。る。東。六。諍。め。よ。言。ひ。あ。く。この。二。品。を。受。納。め。更。小。益。を。改。之。神。原。を。阿。翁。と。唱。へ。小。草。狭。五。郎。を。為。小。草。對。ひ。て。某。の。先。に。さ。ら。と。謙。金。を

車はもほらぐ不准依はまさま。夫婦二人の六倫を婚姻最大礼なり。
夜裳雜具もこの北より齎して彼知へらるる。それらよの晴はあつべし。
速まらぬ人として武具馬具もこの北より齎して小草が夜裳の道具まらる。
財を擲て求めしるべし。ひの外本日ごろ行くと。九月の中流あるらつ。いつか
めつてあつた。とちや鎌倉へ系んとて。猛は後者駁僱ひて。道と衛。唐櫃を
擔し。一郷の老弱劍法の才子ホ不別と若既不起ひせんとて。又あつた。
合戦の際より往還も自在なり。山あり関を居川あり橋を以。その間あり
草賊ホが横行とて傳つる。小殿の物を齎して。冬夏ホ鎌倉へ到りて
けん水砂とて。へらるる。小新獲の。と伝念ら。頃ハ九月十六日。津乃宿
所を住捨て。小草を携。後者を。神戶の浦より便船。十五六日。李の
駄荷ども。舟の積の。て。あつた。送る里人と才子ホ不袂を分ら。
帆と揚楫を揚らるる。大洋ホ系とて。この日の天晴と浪靜なるれも
結句風あり。舟を。海上僅ハ八九里。三河の五十良子崎に駈り。
結旦未明より。追風より。とて。水主楫取ホ罵。教動と旭の浪を。るる。比
真帆揚て。三時。て。東海の大難所。遠江灘を
過り。程ホ忽地ホ風。船ハ膠りて。付。親衛が替力ありと。動
かく。えん。舟人ホ。と。呆果て。左せよ。と罵る。海水俄頃
渦巻て。尾関の潮を容。如。鯨鯢の水を。さ。りの海船。と
うち。目今千尋の水底へ。容らる。後安宗ハ。眼
魂を失つ。絶て生る。水主楫取ハ命を惜む。隨分と働。船
ひ。後安宗。船頭声を。立て。合衆。人
を。類の。この中ホ海神の。あり。

夫一人の命を以て。数十人五の換がじ。かのく行李を投入して。誓の當否を
 試みるも。とらふて。船を馳り。命頂礼水神河伯。今船中の旅客は
 投ぐる物と沈めて。求めぬその人を速に去りし。連ふ示し。舟楫を
 抽く。数回念ふ。逆巻潮。忽ち沈み。静中。おたりし。船も穩に
 さぐ。この際。行李をも流せ。衆皆おひひく。神仏を祈念し。つ
 運。只この一奉。定め。或は笠。或は蓑。或は衣裳。行衣。ひたす。各告
 け。水中へ投入す。多し。漂浪のち。潮引。流。中。い
 東六と。小草が。笠。の。月。の。田。毎。の。宿。ま。す。且。浪。不。揺。れ。く。
 海神の求めぬ。犠牲に。彼人あり。この女子。不疑。ひ。は。な。や。舟。舩。さ。ら。ち
 舟長。不惑。さんて。不覚。は。つ。と。を。經。ん。と。さ。る。や。渦。卷。水。不。投。る。と。た。入。鷄。毛。由
 沈む。既。不。今。の。船。の。傾。れ。後。つ。て。眼。前。沈。ん。と。さ。る。人。ん。と。や。汝。亦。が
 流。せ。物。の。如。し。ま。あ。不。沈。ま。ず。日。が。親。子。の。如。く。う。く。て。渦。ま。く。水。不
 流。ま。る。浪。を。滑。り。て。沈。る。の。も。つ。が。の。所。を。疑。わ。汝。亦。が。び。行李。を。釋。く。
 ひ。ま。く。不。投。て。ん。よ。つ。ま。も。又。さ。さ。し。汝。亦。が。流。と。の。ひ。ま。く。と。も。沈。る
 と。あり。日。が。投。る。の。も。つ。ま。も。の。流。ま。る。の。あ。る。と。た。の。難。う。誓。の。當。否。を。決。ん
 かく。て。も。つ。ま。を。經。ん。と。さ。る。や。汝。亦。を。刺。して。その。ち。ら。不。死。ん。い。つ。不
 そ。や。と。敷。圍。て。刀。の。鞘。を。碎。る。た。り。不。握。持。る。威。勢。猛。く。て。争。ふ。べ。う。も
 あ。ざ。ん。が。人。亦。も。せん。と。な。く。錯。ぬ。り。の。風。魂。流。し。亦。復。物。を。流。す
 程。又。旅客。亦。が。数。を。掲。し。て。投。入。す。初。李。夜。裳。へ。復。更。も。出。ら。ざ。り。潮。の
 ま。く。流。ま。る。り。東。六。郎。こ。し。返。ん。と。さ。る。つ。ま。も。の。行李。を。釋。て。流。ま。る。と。

夫一人の命を以て。数十人五の換がじ。かのく行李を投入して。誓の當否を
 試みるも。とらふて。船を馳り。命頂礼水神河伯。今船中の旅客は
 投ぐる物と沈めて。求めぬその人を速に去りし。連ふ示し。舟楫を
 抽く。数回念ふ。逆巻潮。忽ち沈み。静中。おたりし。船も穩に
 さぐ。この際。行李をも流せ。衆皆おひひく。神仏を祈念し。つ
 運。只この一奉。定め。或は笠。或は蓑。或は衣裳。行衣。ひたす。各告
 け。水中へ投入す。多し。漂浪のち。潮引。流。中。い
 東六と。小草が。笠。の。月。の。田。毎。の。宿。ま。す。且。浪。不。揺。れ。く。
 海神の求めぬ。犠牲に。彼人あり。この女子。不疑。ひ。は。な。や。舟。舩。さ。ら。ち
 舟長。不惑。さんて。不覚。は。つ。と。を。經。ん。と。さ。る。や。渦。卷。水。不。投。る。と。た。入。鷄。毛。由
 沈む。既。不。今。の。船。の。傾。れ。後。つ。て。眼。前。沈。ん。と。さ。る。人。ん。と。や。汝。亦。が
 流。せ。物。の。如。し。ま。あ。不。沈。ま。ず。日。が。親。子。の。如。く。う。く。て。渦。ま。く。水。不
 流。ま。る。浪。を。滑。り。て。沈。る。の。も。つ。が。の。所。を。疑。わ。汝。亦。が。び。行李。を。釋。く。
 ひ。ま。く。不。投。て。ん。よ。つ。ま。も。又。さ。さ。し。汝。亦。が。流。と。の。ひ。ま。く。と。も。沈。る
 と。あり。日。が。投。る。の。も。つ。ま。も。の。流。ま。る。の。あ。る。と。た。の。難。う。誓。の。當。否。を。決。ん
 かく。て。も。つ。ま。を。經。ん。と。さ。る。や。汝。亦。を。刺。して。その。ち。ら。不。死。ん。い。つ。不
 そ。や。と。敷。圍。て。刀。の。鞘。を。碎。る。た。り。不。握。持。る。威。勢。猛。く。て。争。ふ。べ。う。も
 あ。ざ。ん。が。人。亦。も。せん。と。な。く。錯。ぬ。り。の。風。魂。流。し。亦。復。物。を。流。す
 程。又。旅客。亦。が。数。を。掲。し。て。投。入。す。初。李。夜。裳。へ。復。更。も。出。ら。ざ。り。潮。の
 ま。く。流。ま。る。り。東。六。郎。こ。し。返。ん。と。さ。る。つ。ま。も。の。行李。を。釋。て。流。ま。る。と。



系舟未定

一八



東六死七
遠州難
投

東六

系舟未定

八千代の後も長櫃とけしつゝ櫃不祝。浦島の子の玉乃益
 あけ悔し衣葛籠徒下襲或ハ榻箔徒箔飾磨乃
 茶襦小京纈綃練荏土紫縹緹の蒙衣宿直物縹練貫仁思
 袖小妻木綿の油篋や女児が好ま作ら。金飽甘晴衣裳皆あ
 んせごとそ修流とこよ。いと惜しむ。釈らうゆわ海女子が願ひ
 移るてその。象の小櫛小玳瑁の髪搔さ小拔とて投んとてい
 捨難。牙の今更形る。又びもあどとと泣外のらん目もさ
 ちて東六八声をう立栲幡が鏡藤太が巻絹よりや燕の子安貝でも
 命小ある宝々。熱小物を惜まへ衆人よ笑まらん。投捨ると激して
 父も移る。舊里へ飾る二色の段熨斗目素袍烏帽子りゆともふ。

破落零々こと投入れば浪不探まそと裏あつ。龍田の秋の韓紅。
 水を濁してとぐく。浪の底を沈まけ。弘人旅客こま浪入と今
 腹道もほ痛くく。親と子の命を捨て。衆人を救ひもへ。
 武士よりけける。時正るくゆええふふと異日同音よ散動もを。
 小草のまゝ東六も今とてひ終この時までも牙を放さ。腰不著ら
 一文字の陣羽織の帛紗を解て泣沈る。小草が背へ楚と負て結び苗
 墨斗の筆を抜出て。天文十七年九月十七日。風濤の難やうて遠江
 灘小水死。畢ぬ五十四塚東六郎享年四十。女児小草十六歳と書寫し。
 親子が必死を極めても。つらさあれ脱ぐく。せめて小草を助んとら
 親の慈しむ。後首を首せん。やうく。地を穿る。野天
 飛ぶ。何らその。尻あふらん。わが親子の尻あふて。腹は東へん

あふ糸なども。えんどうくごく今流せし。女児が嫁入衣裳多。婚縁の糸
そのと。伊勢と相摸と隔た。婿をばゆんぞ。えんれもせど底の水層と
ちんこんと。是の。黄泉の障あり。小舟を流せまもあぶ。げれ海底に
跳入。衆人を救ふべ。その女児を助け。三精。いとひひひて流原
極。武夫も。涙はぬ。け。足踏りて。潔く。飛入んと。ま。う。う。う。
小草の吐。嗟と。携。角。か。慈愛いと。深。水底へ。沈。も。み。見。ど。う。う。阿。答。と。
と。つ。く。く。跡。残。らん。や。と。も。脱。し。ぬ。りの。あり。せ。べ。つ。く。を。先。へ。沈。め。て。と。
この。身。ひ。と。つ。を。犠。牲。す。く。恥。舊。の。如。ま。う。う。悪。多。く。相。摸。へ。ま。つ。ぶ。それ。か
ま。の。幸。は。し。南。を。阿。弥。陀。仏。と。唱。め。身。を。投。入。と。ま。う。う。く。東。六。も
忙。しく。抱。れ。と。め。て。嘆。息。親。あ。つ。え。んと。希。わ。つ。子。の。道。と。い。ひ。た。ら。う。
おん。牙。の。既。に。被。五。郎。と。い。良。人。あり。又。お。の。を。考。え。う。う。も。良。人。の。為。お。負。る。は。い。

婦徳よあつくりま。可る。だ。幼。く。て。親。子。後。ひ。既。に。嫁。して。夫。不。従。ふ。
懼。り。を。忘。ま。し。る。の。辛。く。して。危。難。を。脱。且。恥。謙。愈。著。く。と。あ。ぶ。親。身。
その。陣。羽。織。を。神。原。親。子。へ。ひ。通。せ。よ。然。る。に。君。や。も。其。か。を。操。を。知。り。
ま。ん。ず。や。汲。引。を。と。る。人。あり。と。も。神。原。本。あ。ま。ま。の。その。一。文字。を。必。し。も。
管。領。へ。進。上。し。の。ま。る。こ。の。交。所。平。が。一。言。の。教。お。答。え。と。あ。の。の。一。運。竭。く
親。子。の。為。と。も。大。魚。の。腹。お。葬。ら。れる。べ。こ。ま。も。又。それ。を。ぞ。り。の。か。ら。遊。ま。う。
父。と。姉。が。あ。る。後。ま。も。あ。る。は。し。る。た。止。み。子。の。つ。つ。あ。る。う。う。ら。んと。同。ま。ん。ん。ぬ
子。の。う。ま。も。の。い。ひ。ぞ。出。せ。る。親。さ。ら。か。の。ひ。子。子。の。面。影。を。認。ぬ。母。の。形。見。の
印。籠。胸。の。獲。袋。お。け。て。教。に。願。言。の。只。願。身。の。息。の。内。の。再。会。の。あ。ら。は。で
け。の。水。の。泡。滴。の。後。お。垂。乳。母。の。荒。磯。の。風。の。便。り。も。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。
い。と。奉。意。さ。く。も。あ。ら。う。別。ま。の。あ。は。じ。父。と。母。と。情。や。あ。ら。う。し。や。と。あ。ら。う。

事をわづらぐも。此口渡り死を争ふ。親子が歎きさるる。と後者言
 り。いづれか大凡ねよ。あつと人共は袂をぬじり。借外に潮煙。忽ち終と
 立撞ひて常闇となりし。ぐ。食驚死怪て。送る伴侶の各涙のぶの。咫尺の
 間も黒白を別ど。海の鳴音百千の霹靂不異なる。船はかゝる死後を
 下りぬも倍され。衆皆泣き。戦慄と長食後。時を移して海神乃
 怒るをも。この船の反覆んと。今を瞬中。おあり。船艦をわづしてその
 船子と。せよ。海を。と罵り。船人亦き。鬼て。ぐ。小草を抱け。揚目今
 引。ち。と。小舟の中へ。移。せん。と。う。う。東六怒る。声を激し。覚。期。と
 種。て。極。し。の。破。破。ホ。か。み。を。借。て。い。で。女。見。を。教。ま。ま。返。を。後。と。叫。び。つ
 り。む。ま。バ。旅。客。ホ。の。面。を。速。り。背。下。り。携。り。て。や。や。く。不。引。放。せ。船。人
 抱。り。と。抱。と。る。小。草。を。舩。艦。へ。落。入。ま。又。東。六。を。う。れ。抱。て。の。う。共。ま。ま。せん。と

とんが。五。四。保。は。ま。た。く。嗟。り。て。腰。刀。を。閃。し。近。う。の。破。破。ら。ん。と。さ。る。お。風
 又。猛。に。吹。暴。れ。て。松。の。暴。浪。が。打。揚。ら。れ。捕。ら。れ。て。須。臾。も。身。を。平。く。立
 こ。つ。る。へ。ど。電。向。な。り。て。蓬。庫。が。散。徹。し。人。と。倒。し。つ。れ。も。瘡。で。百。万。の
 敵。軍。を。屠。と。せ。ざ。り。と。る。勇。士。も。い。れ。も。只。一。人。が。傷。る。と。さ。る。と。又。を
 杖。が。膝。立。る。身。に。且。く。息。を。吐。け。り。と。小。草。を。卒。に。一。小。舟。の。纜。を。忽。ち。地
 井。と。断。離。る。音。を。苦。と。叫。び。女。見。が。声。を。胸。も。碎。れ。腸。を。断。る。親。へ。蹠。踏
 る。と。や。俟。小。草。ひ。う。る。を。め。れ。を。黄。泉。の。旅。の。御。導。せん。その。船。か。せ。と
 鳴。び。り。て。立。ん。と。と。の。輾。轉。頭。髪。が。断。離。し。髪。が。乱。れ。物。狂。り。死。益。良。雄。が
 板。子。を。抱。き。身。を。跳。し。浪。を。因。り。て。飛。入。る。憐。む。下。悲。む。下。勇。敢。を。能。又。の
 武。夫。も。心。の。惑。ひ。へ。解。と。め。る。へ。ど。曙。明。が。色。を。磨。て。一。八。が。死。心。を。惹。き。引。か
 七。回。の。亡。日。う。り。故。り。て。妻。を。去。り。稚。児。止。死。子。を。追。突。ひ。今。十。七。回。息。の。符

つらき事なり。むさあをむさあ。月亡日ふ。女兒小草を失ひて。身由又水不溺且て死と。因果觀面水より紀。水不終りし鷄鷄や。きを好み身を喪ふ。その境を戒の境をわけておる。下。水主楫取るての目。東六が投れとれば波の上小人ありと。い。如くんえんて。その程も風風波もあつて。衆皆ややくのれは。小草が船の碇や。けんその跡をふるる。は。五十四塚が後者。只假初の催まられば。かめより主五代を死人とする。の由も。今も。死没むもの。は。辛く命を助りしを。せめてりの。ふりて。瀬戸の川上。船を歌こそ。よろ。故の。ぬり。ふけ。主の枉死を。せ。家も。まけ。安濃の津。ふ。こ。は。稀なり。

本伊

大川

絲櫻春蝶奇縁卷之三終

